

令和7年4月9日全員協議会会議録（要旨）

（9：57 開会）

○八幡元弘議長

ただ今より全員協議会を開催する。会議の傍聴について申出があり、これを許可したのでお知らせする。本日の議題は手元に配付のとおり、執行部からは胎内市生涯学習施設整備基本計画案ほか計3件である。井畑市長よりあいさつ及び説明を願う。

○井畑明彦市長

4月となり、新年度、新学期のスタートとなる。今週は入学式ウィークとでも言うような、市内の小中学校の入学式が執り行われ、議員にも入学式に出席いただいていること感謝申し上げます。今日の議題として執行部から掲げた内容については、担当から詳細について触れるが、冒頭、私から主だった事柄について皆さまにお話申し上げたい。

1つ目は、市民からのニーズの高い生涯学習施設の概要、候補地等々あるが、内容としては、図書館機能、公民館機能、それから交流施設の機能を持った、総合的な生涯学習施設になる。そのように構想したいとこれまでもお伝えした。多くの方々がそこに足を運んでくださるような、そういうことを大切にしていかなければいけないし、全ての市民に対する利用を想定し、できるだけ多くの方に親しんでいただけるよう考えなければいけない。その考え方の中、どの場所が適地かは色々な意見があると承知している。例えば子どもたちが闊達に遊び回れる、親子の交流、多世代交流が果たされると考えたとき、屋内や屋外でもそれが考えられる場所、広さ、自然と一体化できるような、そういう場所が必要であろうと思う。車の方も多く広々とした駐車場も必要である。色々我々として考え、様々な委員会等でも市民の皆さまから意見を頂き、仮であるが嘉平山の周辺が有力な候補地となるであろうと掲げ、基本計画にも盛り込んでいる。しかし、色々な方々から丁寧に意見をお聞きする、そういうスタンスで考えており、この後のパブリックコメントについても、できるだけゆったりとした期間を設け、その先は市民に対する説明会や、意見交換的な場も考えたいと思うことを、冒頭お伝えする。

2番目は、市内の中学校の再編、具体的には統合という形で、先般、総合教育会議で全ての教育委員の皆さまと話し合いを行った。いろんな考え方があるが、そこでは皆さん一致した考え方の中で、子どもたちの豊かな学び、健やかな成長に資する再編のあり方はいかなるものか。これから先10年、その先を見たときに、やはり4校統合という形でないと、豊かな学びや健やかな成長は叶えることが難しい。もちろん課題はあり、この件に関しても、どの場所で学び舎を設置することが望ましいのか。通学の安全や利便、地域との繋がりを十分満たすためどのような配慮が必要であるのか等々は、これか

らの課題になる。課題を十分認識し、関係各位や地域とも色々と話し合いを重ねて、望ましい学び舎を整備していく考えでいること、この2点を理解頂きたいと思う。

3番目は細かいことかもしれないが、議会でもいくつか審議や質問を頂いたが、敬老会のあり方について、色々な方々から話を聞き、形は違う方向になるとしても、高齢者や対象者の思いをできるだけ酌んで進めることを予めお伝えする内容である。

以上、皆さまに大切なテーマについてお知りおきいただきたく、3月定例議会でも4月に全員協議会を開催すると、あらかじめスケジュールに沿ってだがお願いする。

○佐久間生涯学習課長から（1）胎内市生涯学習施設整備計画基本計画（案）について説明。

○井上学校教育課長から（2）胎内市立中学校の統合に関する方針について説明。

○金子福祉介護課長から（3）敬老事業のあり方について説明。

○八幡元弘議長

執行部から説明のあった（1）から（3）まで順次質疑を行う。初めに（1）胎内市生涯学習施設整備計画基本計画（案）について質問はあるか。

○丸山孝博議員

建設候補地として、市長が前から言われるように、嘉平山で決定ではないと思うが、場所について、これを聞いた市民からは色々意見があると、先ほど市長も認めた通りだが、かなりの声があるが、どこが良いということもなく、そこら辺が私もどうなのかというのはある。ただ、候補地として選定したことに対しての説明が出ているが、昨年年第4回定例会、生涯学習施設について天木議員が一般質問をした中で、生涯学習施設の建設候補地について、整備基本計画では検討結果から市有地の関沢地内が有力とあるが、市民の意見聴取や説明の開催は行わないのかという質問である。これに対し市長は事前に質問通告があった訳ですから、考えて文章化したものを述べたと私は理解していますが、市長は、現段階において嘉平山が有力候補地として考えているところだと。その上で、具体的な施設の計画や建設候補地などを盛り込んだ基本計画を定める予定であると。今後、機を見て市民の皆さまに建設候補地についての説明や意見などいただく場を設けることについて考えたいと述べている。パブコメではなく、建設候補地に絞った市民の意見を聞きたいと私は理解しているが、その辺市長はどう考えているか。

○井畑明彦市長

生涯学習施設の場所はどこがいいのかも非常に大切な要素であることは、これまでも

申し上げた通りである。しかし、どんな内容をどのように整えていくのかが、根幹に関わるところでもあることから、候補地だけを切り離すよりも、全ての事柄を盛り込み、パブリックコメントも実施して様々な意見をいただく。あるいは説明会、意見交換会等、これまでも開催してきたが、さらに丁寧に行うべきところがあれば尽くしていく。候補地だけ切り離してとは考えていない。候補地を含んで、全体像について様々な意見を伺っていく。

○丸山孝博議員

本会議で市民の皆さまに建設候補地についての説明や意見をいただく場を設けて参りたいと言っている訳であるから、これは住民説明会をやるのではないかと受け止められる答弁である。候補地はかなり大きな内容だと思う。もちろん内容や施設の中身も大事ではあるが、どこに設置するか、一番市民が関心を持つ内容であると私は理解しているが、ここについて切り離して説明をするということは、進めていく上での大事な課題ではないかと思う。

○井畑明彦市長

繰り返しになるがどちらも大事ではないか。両方大事なものを分離して、セパレートして、1回目は例えば内容、2回目は場所というやり方は、全体像を見失ってしまわないかと考える。どの場所がいいかというのは、どういう内容のものを作るかによって変わってくるということを、市民の皆さまにも理解頂ければありがたい。場所の広さがあまり必要でない施設を作る際は、色々な候補地がもっと他にあるかもしれない。ただ、こういった内容の施設で広々とした駐車場であるとか、わかりやすい場所であるとか、親子の交流や多世代交流を考えたときに、施設は屋内も屋外もゆつくりと散策できたり、子どもを遊ばせたりと考えたときの適地はどこなのか、関連づけて説明することがむしろ大切であろうと考えている。

○丸山孝博議員

利用する市民は場所に最大限の関心があることについては、先ほど市長も認めになったと思う。今後、嘉平山で進めていきたいと公表していくが、その時パブコメもやると言っているが、それ以外でもいろんな場でこのことが話題になると思う。そういった場で、嘉平山ではいかがなものかという声が市民の中から湧いてくる状況になると想定している。仮の話でしかないが。ここを見直すことも考えざるを得ないような、市民からこの場所について再考すべきだという意見は出かねない訳で、そういった場での市長の考え、これはもう絶対だと、いうことにはならないと思うがいかがか。

○井畑明彦市長

強引に進めるつもりは毛頭ない。私が何らかの思惑でそう申し上げ、特定の思いとか考えに依拠しているものではないことは、この場でもしっかりと理解頂きたいと思う。様々なことを考えてなおどこがいいのか。傾聴すべき部分はしっかりと傾聴していきたいと思うし、関係付けて言うと、然らばどこがいいのかというところも合わせてお聞きしていくことが大事ではないか。現実的にこういう場所があり、こういったことを考えるために、こういった候補地がより適しているか否か、よくよくお聞きしながら進めていけばいいのではないか。その一方で会議は踊る。議論は進まず、集約が図られないことが長く続くのも良い傾向ではない。これだけニーズの高いもの、できるだけ早くという声は議会からもあり、ここも大切にしなければいけないのではないか。色々な意見を聞きながら、しっかりとした歩みを進めていく、両輪で考えるべき事柄と認識をしている。

○丸山孝博議員

私は建設候補地の説明はやって欲しいということへの考えは変わらない。別の話になるが、12 ページに公民館機能のホール・講堂とあるが、何人規模になるか。

○佐久間生涯学習課長。

現在、どの程度の部屋の大きさとか、必要な部屋かどうかは、設計の段階でより優れた設計の中から選定していきたいと考えており、現時点で何㎡というものはない。積算では今回規模感を出す上で算定した中で 180 ㎡を想定するが、あくまでも設計者の創意工夫、自由度を妨げるものではないので、積算する中での数値と理解いただきたい。

○羽田野孝子議員

生涯学習施設について、皆さんから寄せられる意見を聞いてお伝えしておきたいが、黒川図書館を結構利用していて、中条の図書館から本も交換して利用しているが、新しい施設が出来たらここは無くなるのか、それは困るという話が寄せられた。あと、中条図書館で結構生徒さんが勉強しており、駅の近くで気軽に勉強ができたところが無くなるのが困るのではないかと伺った。場所を決めるにあたり、私としては、例えばふれすぽ近く、胎内小学校近くという話も確かあり、嘉平山とあるが、どこがいいか。今図書館を利用している人は何しろ遠くなるのが困るということであつた。車で行って遠くなるって、駅から近いと言われたが全然近くない、歩いたら 25 分かかったと。利用しやすい所のアンケートといいますか、市報等で意見のある方が気軽に投稿できるような、そういうことをしていただきたい。

○井畑明彦市長

多岐にわたる質問でどこから答えたら良いか難しい。先ほど説明した中でも、やはり

最大公約数を大事にしていく必要性はあると申し上げた。色々な個別のニーズはあるが、この施設は全ての市民、全ての地区の方々が広く利用していただけるような、基本的なコンセプトを大切にしなければいけないのではないかと考えている。わかりやすさ、アクセスのしやすさ、車で来る人も駐車場が広いであるとか、先ほど申し上げた通りである。さらに、黒川の図書館の話があったその一方で、やはり高齢化に伴い、車の運転も難しい方への配慮も大事であるし、近くにそれぞれの施設もある。例えば公民館的機能であれば乙にも築地にも黒川にもある。中央公民館、旧中条地区のところにもある。ただし黒川は老朽化しており、それも併せて考えなければならない。中央公民館や図書館、中条地区限定で考えてもかなり老朽化している。全体のものエリアごとのもの、両方考える時代背景にある。それが正にニーズになってきていると考える。また、市報等でアンケートといったところでは、大事なことはしっかりと説明し、理解をいただいた上でのアンケートでないと、アンケートだけが1人歩きし、極めて大切にしなければいけない事柄に触れられることもないままに、いろんな声が百出する議論も百出する。そして、共通の認識の中で話し合いが進められないことになってはいけない。説明を尽くすべきはしっかりと尽くし、お聞きすべきはお聞きしていく、そういう考えでいることを理解頂きたい。色々な声をお聞きすることについては、全く否定するものではない。

○薄田智議員

生涯学習施設の大まかな基本部分の説明あったが、案件については平成29年から始まりプロジェクトチームが立ち上がり、もう足かけ9年である。当初から言われていたのは、中条中央公民館があって町体があって、文教エリアとしてまちづくりを進めていくと、当初はそういう話で私は聞いていたし持っていた。9年間で情勢も変わっており、人口が減り子どもも少なくなる。そんな中で将来どんなまちづくりをするのか、コンパクトシティを目指しながら、みんなが集う施設でありたいというのが基本だと私は思う。であれば、もう1回本当に嘉平山がいいのか、あるいは、文教エリア的な部分で、今の中学校とか高校と連携した形で対応できる施設がいいのか。その辺がこれから考える部分が必要かと思っている。先ほど丸山議員の話の通り、市民に真剣に考えてもらう部分があっていいという気持ちはあるがいかがか。

○井畑明彦市長

議員が言われるように、この間かなり状況変化はあっただろうと率直に思う。中学校の再編を行うとき、まだ確定していないが、中条中学校のところは有力候補地になっている。そして、中学校の学び舎としての静謐な環境を維持するということ、安全も考えていくところ、それらを総合的に考えたときに、旧体育館の跡地は統合した中学校に必要な敷地に組み込まれることが望ましいし必要だというのが一番大きな考慮ポイントではないか。コンパクトシティは進められていくことが然るべきと思うが、なかなか

丁度良い敷地がどこにあるのか。駅の周辺は新たに取得しないと難しい。アクセスもしやすく広々としたエリアも確保できるか。そうした時に、嘉平山は山の上のように考えている人がないこともないが、決してそうではなく、その場所は駅裏や西口、東口から一定距離、それから小学校その他の近接状況を考えても、決して遠い場所ではないということある。市民の皆さまがイメージしづらいところがあれば、このような近接地ですとしっかりとお伝えしていきたいと思う。いずれにしても、検討委員会等で様々な議論をしてきた。しかし、それに加えて更に場所も含めて現実化していく際、より多くの方々の具体的な提案も含んでの意見、これらはしっかりとお聞きしていきたい。

○薄田智議員

生涯学習センターと中学校の統合という2つの話があり、生涯学習センターについては9年間議論してきた。中学校についてもずっと議論してきた。2つは重なる部分がある。中学校も生涯学習センターも2つの施設、学校統合という部分ではパッケージで議論する、考えるのも必要かと私は思うが、その辺は別個で考えるのか。

○井畑明彦市長

パッケージというかセットで考えなければいけないという意味合いで話した。両方考え、両方がうまく成り立つようにするためにはどうあったらいいか。中条中学校を再編したときの一番いい場所が、今申し上げた中条中学校のエリアを拡充して整備するという方向づけがされるとすれば、必然的に生涯学習センターの候補地から消去しなければいけないことは自然な考え方であろう。中条中学校の敷地を新設される中学校と捉えた場合、それ以外の場所で適地を探したらどうか。そこは進入道路として狭隘であると指摘されており、多くの方が出入りする場所としては、必ずしも適地ではないということも視野に入れる必要がある。セットで考える部分、総合的に考える部分を両にらみで考え、構想していることも併せて理解頂きたい。

○増子達也議員

場所について、車を利用しない方に向けてどの程度配慮しているか。特に使いたいと思う方が高校生や中学生で受験の時に使いたいだろう。そのときに徒歩で行けるのか、自転車で行けるのか、送り迎えがなければ行けないのか、といった配慮は十分されていない気がする。その辺の配慮、嘉平山から中条駅までの距離はどれぐらいか。

○井畑明彦市長

距離等については担当から補足する。大事なことは、確かに高校生が勉強することも考えられたら一番良いが、最大公約数としてどう考えるのか。より多くの方がどういうケースが一番多いのか、ということを考える必要性はあるだろう。受験とあったが、さ

すがに受験等絡めて考えるのは目的を狭めた考え方にもなりかねないと思う。さらに、アクセスについては都市部で公共交通機関が非常に発達している場所と、我々のように公共交通機関は、ほぼのれんす号しかない場所は趣が違うということを基本認識として持っておかなければいけない。のれんす号で来られる人は、のれんす号で来ていただくことも併せて考えていくべきだろうとお示ししたとおりである。徒歩に関しては、誰も歩いて行けたら一番理想だと思うが、市民の殆どの人がみんな歩いていけるかというところ決してそうではない。そこも考えて進めていく。我々も共有事項として、自転車とかで行きやすい、そして安全であるといったところは、ルート等も含めて考えたい。

○佐久間生涯学習課長

中条駅から予定地までの距離だが、約1キロである。徒歩の所要時間としては大体16分から20分の間、18分程度である。

○増子達也議員

距離はもう1キロだと、嘉平山の入口付近かと思うが、そこからまた奥の方まで入るはず。そこまで入れるともう少し距離が伸びるのではないか。徒歩だからという側面で見えており、駅から徒歩で行くのにどれぐらいかかるのかを、20分と30分では大きく違うのでその辺を聞いている。

○井畑明彦市長

担当課長からは20分確実に掛かるのではなく、16分から20分ぐらいという話で、嘉平山の奥の方に入っていくという話ではない。

○増子達也議員

なるべく正確に願います。

○佐久間生涯学習課長

約1キロ、正確に計測したところ0.9キロだが、これは敷地の中までではなく、敷地手前の道路までとなり、そこから200mとか中に入ることになると思うが、配置も含めて今後基本設計等で確定していくことで理解いただきたい。

○増子達也議員

1.2km前後になるかと思う。みんなが歩いて行くという答弁があったが、当然私も皆さんが歩いて行けるところではないことは承知している。私が言いたいのは車がある方はどこでもある程度行けるが、交通手段がない方にとってはとても遠いところになるだろう。これは公共交通機関とセットであるべきと思っている。のれんす号だけで果たし

て皆さんの足になるのかという、なりえないのではないかとっており、そういったところも考えた上で嘉平山なのか。その辺が抜け落ちているのではないと思うがどう考えているか。

○井畑明彦市長

抜け落ちているとは思っていない。公共交通が非常に利用しやすい環境にあることは1つの理想だと思う。しかし施設が出来て必ずどこからでも公共交通機関で、ある程度の本数を確保して行けるということ、この理想に近づけ得る手段があれば、考えていきたいと思う。生涯学習施設だけに限らないことである。色んなことに関して、より多くの方々がどう中心市街地にアクセスできるのか、アクセスしやすいのか、これは色々知恵を出しながらやっていく以外にないと思う。飛躍しているかもしれないが、買い物を例にとってもそれが言えて、事業者の方々が買い物支援として移動車を用意して来てもらうということもあり、図書館では移動図書館を考えるなど、様々な方策で物事を進めているところもあるため、補完策等について様々な意見をいただきながら、より良い望ましい方策を組み合わせる実施していく。こういう視点が必要だと認識している。

○増子達也議員

色々説明いただいたが、私は公共交通とセットであればいいと思っており、駅に近いのであればいいが、微妙な距離ではないかと思い、公共交通機関とのセットも必要ではないかと考える。それと嘉平山で果たしていいのかという議論もあるが、市民の意見は大切だと思っており、議員からもそういう意見あったが、パブリックコメントだけでは2ヶ月行ったとしても、どれだけの意見があるのか。ここはプッシュ型で多くの方の意見を聞くべきではないかと思う。特に場所については、皆さんがいいというエリアに出来るかは別として、市民の意見は大切にいただいたほうがいい。このままでは何であそこになったのかという話も当然出てくる。ある程度、パブコメだけではなく広く意見を募るべきだと思うが、先ほども答弁あったがいかがか。

○井畑明彦市長

丸山議員のところでは答弁した通りで、パブコメだけではない。担当課長からもパブリックコメントの後、説明会等も開催する。さらに、色々な方々の声があればお聞きしていく。こういう基本的な考えである。さらに付け加えると、検討委員会その他の方々、私自身も情報共有した中で、懇談会や意見交換を行っていくことも考える。

○増子達也議員

交通手段は必要であって、嘉平山の敷地は相当広いと伺っており、見る限りでは十分ではないと思う。市民の意見がおざなりになっては困る。置いてきぼりになったら困る。

その辺、市長とは意見違うようであるが、できたら意見聴取していただきたい。

○井畑明彦市長

理解いただけていない部分は残念であるが、パブリックコメントは一般的には1ヶ月と決まっているものを1ヶ月延ばす。確かにパブリックコメントだけでは足りないという認識も持っているが、そもそも1ヶ月が基本であるところを2ヶ月にしている。さらには説明会も設けて色々聞いていく。それで市民の声を、おざなりにしているとか、そういうことにはなっていないと、繰り返しとなるがお伝えしておく。

○寛智也議員

今回の件では約80人の市民の皆さんや小学校、中学校、高校生、大学生を含めてワークショップを行った。そこから色々と導き出されていると思うが、情報収集した時期が6年半前であり、色々と環境が変わっていると思うがその辺をお聞きしたい。先ほどの答弁あった買い物難民ということは結構あり、街中にあったスーパーが移動したのもある。その中で、基本コンセプトの中にも建てた世代が利用できる施設となった場合に、そういった例えば、利用しついでに買い物ができるとか、そういった施設等々の盛り込み等は今のところ構成の中に入っていない。そういった部分も今後ヒアリングしていくのか。また、子どもの遊び場、室内遊具施設が本当に必要とされている。夏は暑く冬は雪が降って動けない。今度、まだ基本設計は出ていないが盛り込んでいくのか。また、例えば嘉平山となった場合に獣害、サルやイノシシ、クマなど結構大きな問題になるでしょう。芝生広場等々あり本当に自然が豊かな場所だが懸念されている。自然災害についても、昨年7月の長雨の時には関沢地区に災害レベル4が出たのを覚えているが、それらも考えた際に避難所として適しているかも教えて欲しい。

○井畑明彦市長

合意形成の部分であるが、確かに議員の言われるように6年前の最初のヒアリング等があり、私が様々な委員の方々から、少数の意見もあるが大筋嘉平山で良いというふうに言っていたのは最近のことである。最近ヒアリング等した際にそういうお答えをちょうだいした。これをさらに広げ深掘りし、多様な傾聴すべき、先ほど来申している意見があるのであればそれもお聞きし、それで最終的な候補地決定に至る道筋をとっていきたいと思う。更に買い物難民の話は確かにしたが、例えばスーパーマーケットの近くに作れるかと言うと場所が無い。でも割と近いということはあると思う。そう考えた場合、そこはリンクできる可能性があるのではないか。それから、子ども達の遊び場、親子の交流に関して、ここが正に中核といえる魅力あるポイントだと私は思う。例えば駅で小さな建物ができたとして、それは親子が楽しく交流したり、遊んだり、屋内外共に合わせてそれが出来るかは難しい。嘉平山に作った際は、屋内でも屋外でも存分に楽

しんで遊んでくつろげる場所になるだろうというところがとても大きな要素である。獣害に関しては、そこを利用した人が熊や猿に遭遇して何かあればもちろん大変である。これは徹底して無いようにする。言うまでもないが、もっと山あいの地域に住む集落の方々も多くおり、これが出来たから獣害が心配というのは飛躍があるのではないかと思いますので、しっかりと説明したい。避難所の話は、避難所ではなく災害拠点である。避難所機能もあっても良いが、防災に関する備蓄倉庫や経営啓発活動を行うということがメインであり、一部避難所として活用できる部分があれば、それは併せた機能として持つという意味で考えていただきたい。

○寛智也議員

遊びのスペースは他の候補地では狭いため、なかなか厳しいということはその通りだが、示されていない中で、例えば複層階にする計画があるのか、バリアフリーでいくのか、それによりスペースの利用場所は結構変わってくると思う。その辺は、今まだ基本設計で、思惑あるのかはわからない。

○井畑明彦市長

やはり利便性、利用者しやすさ、利用する人の満足度、楽しさ、これらを考えたときに、複層階がいいのか、平屋がいいのか、色々出てくると思っている。あまり高い建物もどうかという漠然とした印象はある。またコスト、総面積をできるだけ、建床面積となるか、延床面積は同じとしても建てる床面積をあまり広げすぎず、もっとゆとりのある屋外のスペースを確保するとか、それらを総合的に考えなければいけないし、現実のものにする時には多分、プロポーザルという手法が適しているだろうと、色んな方の色んな提案、こういうコンセプトでこう考え、こういった建物にしていくことが理想と考えるという、色んな提案があると思うので、それらをしっかりと聞きながら、吟味しながら、市民に喜んでいただけるような施設整備を図る。

○天木義人議員

新聞に出ていたが、生涯学習センターの設計に関して、入札の簡素化、透明性を考えるとあったがどういうことか。

○佐久間生涯学習課長

新聞報道は分からないが、国交省の支援を受け、設計のあり方として、物価高騰でなかなか応札ならず不調になることも多いので、そうならないようにということと、完成後の施設管理、運営で効率的に行えるかどうか、より望ましい業者であるといったところを、設計段階で、実際の運営を担っている民間事業者の意見を反映させるなど、アドバイスを受けながら行いたく、国交省の支援を受ける予定としている。

○天木義人議員

設計段階から業者が関わって行うということが出来たようだが、今日の説明聞くと従来通りの設計で、その辺は今のやり方と変わって来ているのではないか。あと、管理体制もどうするのか。それらも国の主導で行うのか。期限が1年間、2年間か、そんなに時間がないと思う。

○井畑明彦市長

国の制度、補助金等を含めて、活用できる部分は国が示している内容に則り行う流れになるので、ご理解、ご安心いただきたい。この手法は実際に業者を選定する時はおそらくプロポーザルが適しているであろう。これを型にはまったところで決めて価格競争だけを行うということでは出来ないので、内容と価格に関するプロポーザルをしっかりといただき、決めていくという手法をとっていくことが必要だろう。提案をしていただくにあたり、ある程度の規模感と超概算のところの部分を示さないと、プロポーザルしようがないということになり、その手法を取るためにも、概要、概算のところだけ、ここに掲げているところ、修正が必要であればそれも考えて、しっかりと事業者の方々から提案いただける概要を整えて示していく考えである。

○天木義人議員

我々議員には内容が知らされず、今まで様々な案件と結果だけを知らされ、それでどうですかと言われても分からない。内容も多少は知らせてもらわないと判断材料とならない。ここを設定すると考えると、委託の場合も、結果がこうだからお願いではなく、内容等を知らないで判断できないので、その辺も透明性を持って公開してほしい。

○井畑明彦市長

内容を示さないと分からないから教えて欲しいとあった。それも含んで、今ここにお示ししている。今の段階ではそうであると理解いただきたい。この先に関しても、こういう形で様々な意見をいただき、プロポーザル入札の場合、いろんな審査工程、審査基準を設けて、秘密裏にというよりも、提案した事業、あるいは施設に係る部分の委員会を設けて、そこで議論し点数付けをして、最高得点者を優先交渉権者と定める流れであるので、その前後、またこのように進捗が図られた際に今こういうところであるというところはきちんとお示ししていく。様々な合意形成が図られ、そこに至るときには必ず議会にもお伝えする。

○羽田野孝子議員

友達が図書館を利用しているが、声が掛かって生涯学習センターの会議に行ってきた

とのことだが、その時はもう嘉平山に決まっているという説明だったと言う。例えばほんと HQT を建てる時には色々楽しかったが、全部決まっているみたいだと。そういうやり方ではなく、友達が言うには、ぶれすぽの近くなら大きな遊具置けるだろうし、子どもの遊び場もできる。母親と子どもはそこへ行き、父親は運動をぶれすぽで。そんな利用が出来たらいいのにとっているが、嘉平山で大きい遊具を持たなければならないし室内も場所も使わなければいけないから、もうここしかないと受けとめた。

○井畑明彦市長

羽田野議員の言われる友達という方の声を聞いたことがなく答えようがないが、ただ生涯学習課で説明しているのは、決まったからとは言っていないはずである。そうではなく、色々進めるときに先ほども話している通り、有力候補地を出さずに議論はなかなか進まないから、たたき台として、有力候補地として嘉平山と考えているとお伝えしたはず。後でその現場、そう言った方と話した担当課長は、多分その件も承知していると思うが、補足してお答えさせていただく。あと、先ほどの話と重なるが、アクセスのしやすさ、わかりやすさ、どういうエリアになっているか、諸々のことを総合的に考えて、ぶれすぽの近くは絶対だめということではない。しかし、中心市街地からの距離なども考慮しながら、嘉平山は山だと捉えられがちだが、中心市街地からは近接しているところも含みながら、話をお聞きしたいというスタンスでいる。

○羽田野孝子議員

嘉平山の他に候補地としてここも考えているということは示さないのか。

○井畑明彦市長

これ以外ないとは決して言ってないはずである。ぶれすぽの近くや駅の近くとか、意見としてこれまでもいただいてきた。皆さんで話をし、様々なところを総合的に考えた場合はどうか、そういう議論の流れであったことは理解いただきたい。繰り返したが、大きな部分として距離も大事、しかし、最大公約数的に市民が利用しやすいところも大事。さらに広さは総合的に考えると、公園であるとか、そういった形の施設、スペース、そういうものもあったら良いということは、この生涯学習施設を考える他にも様々なあったはずである。実際我々も聞いてきた。色々な場面でそういう声も聞いてきた。総合的、多角的に考えてたたき台を示したということは理解いただきたい。

○佐久間生涯学習課長

先ほど羽田野議員から友人の話があったが、3月上旬に、かつて基本構想を取りまとめるにあたり意見等いただいた検討委員の方、ワークショップに参加された方、その方々の中でも、声が掛けられる範囲で声掛けをして説明会を開催した。その内容は、皆

さんに意見をいただきまとめた基本構想について振り返りをし、それについて賛同いただいたところで、その後基本計画ということで、それを踏まえたコンセプト、そのコンセプト実現にあたり、嘉平山が有力地であると話をさせていただいた。その場では候補地について、緑の中で良いという方もいたが、逆に賛同できないという方もいたので、その後発言の無かった方々に連絡をしたところ、嘉平山自体を賛同できないということではなく、今までのプロセスの中でほっと HOT を例にとのような話はあったが、今回に関してはそういうこともあろうと。賛同できないという話を伺った中では無かった。

○八幡元弘議長

他にあるか。

(なし)

○八幡元弘議長

次に（２）胎内市立中学校の統合に関する方針について質問はあるか。

○丸山孝博議員

統合については、市内４中学校を１中学校に統合する。年度はおおよそ１０年後を目途に統合する。統合に向けたスケジュールの中では今年度、７年度に準備委員会を設置して協議するとあるが、設置場所について明確に示されていないようであり、ここで議論するのか、準備委員会で決めるのか、その後に市が方針を示すのか。その辺が見えて来ないがいかがか。

○井上学校教育課長

設置場所は今後設置を予定する準備委員会で検討していただこうと考えている。

○丸山孝博議員

準備委員会で検討してもらう中に大事な問題が含まれていないと受けとめたので尋ねたが、準備委員会でも設置場所を決める、候補地として上げると理解していいか。そうでなければここに上げるべきではないかと思うがいかがか。

○井上学校教育課長

スケジュール案の７年度の新しい学校のあり方、教育目標校舎施設などに関する所にも場所が含まれると考えており、準備委員会で場所について検討し、最終的には議会で市条例の改正を諮り最終決定となる。

○丸山孝博議員

統合に関する方針に基づいてと言われたが、その方針は今示されているのがその内容と理解している。3候補ありメリット、デメリットがあると説明あるが、その内容について準備委員会で議論し、最終的にここだと方向付けされると理解してよいか。

○井畑明彦市長

冒頭でも説明したが、場所をどこにするかは極めて大切な要素になる。まして生涯学習施設と関連づけて推移すると、その重要性はますます大きくなる。さらには通学路の安全、その他にも関係することから、しっかりと議論することは当然のことと思っている。準備委員会だけではなく、様々な方から話をお聞きするところがあれば、お聞きしていきたいと思うし、議会に対しても、最終的に何で決まるかは市立中学校の設置条例で決まる。当然のことながら、議会には議論の途中経過もお示しし、様々な質問、意見も頂き、大方の合意形成が得られたとき、タイミング様々あるが議会に諮り、その具体を決定していくとなるので、議論せずに進めるということはない。

○八幡元弘議長

他にあるか。

(なし)

○八幡元弘議長

質問ないので、次に（３）敬老事業のあり方について質問はあるか。

○渡辺栄六委員

敬老会の事業はお祝いクーポン券の方向性であるが、以前の説明では敬老会に出席される方は非常に少なくなっているとのことで、コロナ禍で開催を狭めたり、会場での飲食を制限していることも理由かと思う。主な敬老会の出席者が少なくなった要因はどうか分析されているか。

○井畑明彦市長

これは1つの理由だけではないと想像する。自ら敬老のお祝いを心より望んでいる方々ばかりではないということも大きいと思うし、そこに出かけるのが面倒だという考えの方も少なからずいる。そして意向調査を行ってもそういう声が届いている。集合して行事を行うのではなく、記念品の方が、あるいは弁当だけでも頂ければいいという声もお聞きする。色々な要因があると思うが、敬老会は長く続けてきたが形骸化してきている側面があるのだろう。現実に参加する人の割合が、対象となる方の10数パーセン

トしかいない。そうした時に、敬老の祝意は市全体として行い、表意は残していくのが大切であろうと考えて進めている。真相の審議まで分析することは容易ではないが、そのようなことに鑑みてということで理解いただきたい。

○渡辺栄六議員

出席人数が少ないことも要因とし、クーポン券を配布する方向性であるが、実は、敬老会の出席者が少なくとも、それを楽しみに張り合いを持っている方も居る。老人会等の存続も厳しい状況の中で、高齢者が楽しみ、飲食したり楽しんだりする場は必要ではないか。やり方は地区別、招待などあり方についてどう考えるか。

○井畑明彦市長

個人的には、例えばそこで余興や食事をするなど、そういう場は人数が少なくともあったほうがいいという思いは基本的にある。ただ、参加率はしっかりととらえなければならず、10数パーセントの方は出席しているが、8割方は出席していない。そういう方に対するお祝いの気持ちをどう伝えるか、そこは基本的にクーポン券がいいのではないか。区長やその他の方々に聞き取りした中で、この方針が望ましいという声がほとんどであり、このようにする。受け取り方法で若干説明が足りなかったかもしれないが、地区でお祝い行事をしたい、本人に直接渡したいという地区については、クーポン券と記念品を区長に渡すとか、そういうことを考えていきたいと思う。さすがに136町内集落あり、1つ1つの意向に沿って職員が出向くことはできないが、できるだけきめ細かな対応を尽くしていきたい。今年度試行的に行い、もっと多くの人に喜んでもらえる方策があれば、それも考えていきたい。

○渡辺栄六議員

市長の説明では、地区別に開催できるところは改正の方向性で柔軟に考えて、何らかの支援をしていく考え方でよいのか。

○井畑明彦市長

何らかの支援というと、公平性を保てるかという部分があり、個別に支援するのは難しい要素が入る。ただし、そういうところに柔軟性を持った対応を心がけ、クーポン券をその会場にお持ちし、参加された人に配っていただくとか、そういうことはできると思う。さらに今年度からは地域応援型という補助金を用意しているので、町内・集落でそこに活用しようという声があれば活用することもできる。色々な方策、対応があると思うので、多角的に柔軟に対応したいと考えている。

○八幡元弘議長

他にあるか。

(なし)

○八幡元弘議長

井上学校教育課長から、中条小学校改築事業に係る備品購入について説明願う。

○井上学校教育課長

中条小学校の改築事業に係る備品購入について、今後発注予定の備品購入については、会議テーブル、椅子、キャビネット等の既製品等について、1,000万円以上の契約となることが想定されており、議会議決を要する既製品等の備品購入について、納期の関係から6月議会の初日を予定日とし議決をいただきたいと考えているので、あらかじめご理解いただきたい。

○八幡元弘議長

このことについて質問あるか。

(なし)

○八幡元弘議長

その他議題以外で、執行部から何かあるか。

(なし)

○八幡元弘議長

議員からは何かあるか。

(なし)

○八幡元弘議長

以上で本日の全員協議会の議題は全て終了した。これをもって閉会とする。

(11:39 閉会)